



埼玉県マスコット
「コバトン」

令和6年産（5年播種）



麦類の生育概況 vol.4

（令和6年3月8日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要約

- ◎気象概況：2月の月平均気温は平年よりかなり高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。
- ◎生育状況：11月播種のほ場では生育は旺盛で茎立期は早まっている。12月播種のほ場では茎数が少ないなど生育量が少ない。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・追肥：麦種、品種と生育に合わせた追肥を実施する。「さとのそら」は必ず実施する。
 - ・排水対策：排水機能を保つよう排水溝の点検補修を行う。
 - ・雑草防除：雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さないよう防除を行う。
 - ・病害虫防除：麦の生育に合わせた赤かび病防除計画を立て、適期に防除を行う。

1 気象の概況

2月の平均気温は、上旬と下旬は平年並であったが、中旬には最高気温が20℃を上回る日があり、月平均では+1.7℃とかなり高くなった。降水量は、上旬と下旬にまとまった降雨があったことから、月合計では平年比155%と多かった。なお、5日に11cmの積雪があった。日照時間は、上下旬で少なかったことから、月合計では平年比92%と少なかった。

2 生育の概況

（1）センター内生育相

ア 小麦（さとのそら：11月24日播種）

1月までの生育が進んでいたことに加え、2月が高温傾向であったことから、葉位の進展は平年（令和2～4年播種の3か年平均）より早まり、草丈、茎数ともに平年を上回っている。幼穂の分化ステージは平年より進んでいる。2月26日調査における稈長は5.5mmと平年（2.3mm）を上回り、茎立期*は平年より早まると予想される。

*茎立期は稈長が2cmになった時期をいい、さとのそらでは偽茎長（地面から最上位の展開葉の葉節（葉耳部分）までの長さ）がおおよそ7cmの時が茎立期と判断できる。

イ 大麦（彩の星：11月24日播種）

小麦同様、生育は進んでおり、葉位の進展は早く、草丈、茎数は平年を上回

っている。幼穂の進展は早く、稈長は 18.8 mmと平年（3.9 mm）を大きく上回っており、莖立期は2月 29 日と平年より6日早かった。3月7日気象庁発表の1か月予報では平均気温は平年並または高い見込みのため、出穂期は平年より早まると予想される。

（2）県内全般

2月の平均気温がかなり高く降水量も多かったため、11月播種のほ場では生育は旺盛で莖立は早まっている。12月播種のほ場では莖数が少ないなど生育量が少ない。

11月播種の秋播性の低い麦類（ビール麦やあやひかりなど）は、高温で生育が早まりやすいことから、莖立期が平年よりも1週間程度早いほ場が見られる。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

1か月予報（気象庁：3月7日発表）では、平均気温は平年並か高い見込み。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込みである。

3か月予報（気象庁：2月20日発表）では、4月の平均気温はほぼ平年並、5月は平年並か高い見込み。降水量はほぼ平年並の見込みである。

（2）生育予測

高温傾向が継続する見込みのため、小麦、大麦とも生育が促進され、11月播種のほ場では莖立期、出穂期とも平年よりも早まると考えられる。また、生育の遅れている12月播種のほ場でも平年の適期播種並の莖立期、出穂期に近づくと考えられる。

4 今後取るべき技術対策

（1）追肥

基肥の肥料成分は、麦の生育が旺盛なことから積極的に吸収されている。また降雨による流亡も進んでいることから、追肥体系で栽培している場合は、目標とする収量やタンパク質含有率を確保するため追肥は必須である。

「さとのそら」では莖立前に窒素成分で3～4 kg/10aを施用する。莖立前に追肥ができなかったほ場では出穂2週間前に窒素成分2 kg/10aを目安に施用する。「あやひかり」では莖立前に窒素成分で2 kg/10aを施用する。莖立が始まったほ場でも、追肥体系のほ場や肥切れで葉色が低下しているほ場では速やかに窒素成分2 kg/10aを目安に施用する。

大麦でも追肥体系のほ場や肥切れで葉色が低下しているほ場では、必ず追肥を実施する。特にビール麦の場合、計画どおりの追肥ができないとタンパク質含有率が低下し、ビールの醸造適性に影響する。

(2) 排水対策

茎立期以降のまとまった降雨は、根の機能を低下させ湿害を助長する。排水溝が埋もれていないか、外部の排水路としっかり連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

(3) 雑草防除

茎立期を過ぎると使用できる除草剤が限られるため、早めに雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さないよう防除を行う。特に、カラスノエンドウ、カラスムギなど、子実が収穫物に混入する恐れのある雑草は確実に除草する。

(4) 病虫害防除

赤かび病の防除は必ず実施する。防除時期は下表を目安にする。

平年の出穂時期は、11月播種の小麦が4月中旬、大麦は3月末～4月上旬であり、12月播種はこれより数日～10日程度遅くなる。

しかし、本年は茎立ちも早く、今後も高温傾向が続くと予報され、出穂期も早まると見込まれる。このため、出穂状況をよく観察し、防除適期を逃さないよう、防除計画を見直し早めに準備を行う。

※赤かび病防除の目安

小麦	<ul style="list-style-type: none">出穂から7～10日後を目安に開花初めを確認し、直ちに薬剤を散布。その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。
ビール麦 (二条大麦)	<ul style="list-style-type: none">穂揃期の10日後に薬剤散布。
六条大麦	<ul style="list-style-type: none">穂揃期に薬剤を必ず散布。その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。

解析・考察に用いた具体的数字

1 2月の気象表（熊谷気象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	5.3	4.4	10.4	10.0	2.1	-0.4	26.0	5.4	28.0	36.5
2	4.3	4.6	10.1	10.2	-1.0	-0.2	0.5	4.7	35.3	36.0
3	8.1	4.9	15.7	10.6	1.2	0.1	0.0	6.3	45.8	35.5
4	11.6	5.4	16.4	11.0	7.5	0.5	0.0	7.0	27.5	35.0
5	5.0	5.9	8.2	11.5	2.9	1.0	19.0	7.3	8.6	34.4
6	6.6	6.4	11.8	12.0	2.8	1.5	4.5	6.8	38.2	26.5
平均	6.8	5.1	12.1	10.8	2.6	0.3	合計 50.0	32.3	183.4	199.8

注1. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値。

2 生育状況

品種名	調査日	草丈		茎数		葉位		風乾重		風乾歩合	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (L)	平年差 (L)	本年 (g/100本)	平年比 (%)	本年 (%)	平年差 (%)
さとのそら	2月5日	10.5	100	7.4	215	5.9	1.5	22.0	197	21.0	-3.6
	2月15日	13.3	114	9.9	183	6.6	1.2	34.6	188	19.0	-0.9
	2月26日	20.6	149	11.8	153	7.8	1.5	61.8	201	12.6	-6.3
彩の星	2月5日	14.7	122	9.5	163	5.7	0.8	38.7	196	16.0	-0.6
	2月15日	17.7	120	12.2	136	6.4	0.6	61.4	175	15.5	1.2
	2月26日	29.7	157	14.7	133	7.6	1.2	124.0	193	10.7	-3.8

注1. 平年値は、さとのそら、彩の星とも暖冬であった令和2～4年播種の3か年平均。以下同様。

注2. 風乾重は100個体当たりグラム。風乾歩合は風乾重÷生体重。

3 幼穂分化

品種	調査日	稈長			幼穂長			幼穂分化ステージ	
		本年 (mm)	平年 (mm)	平年比 (%)	本年 (mm)	平年 (mm)	平年比 (%)	本年	平年
さとのそら	2月26日	5.5	2.3	235	1.3	0.9	138	VII後～VIII	VII前
彩の星	2月26日	18.8	3.9	479	6.2	2.7	233	X	IX中

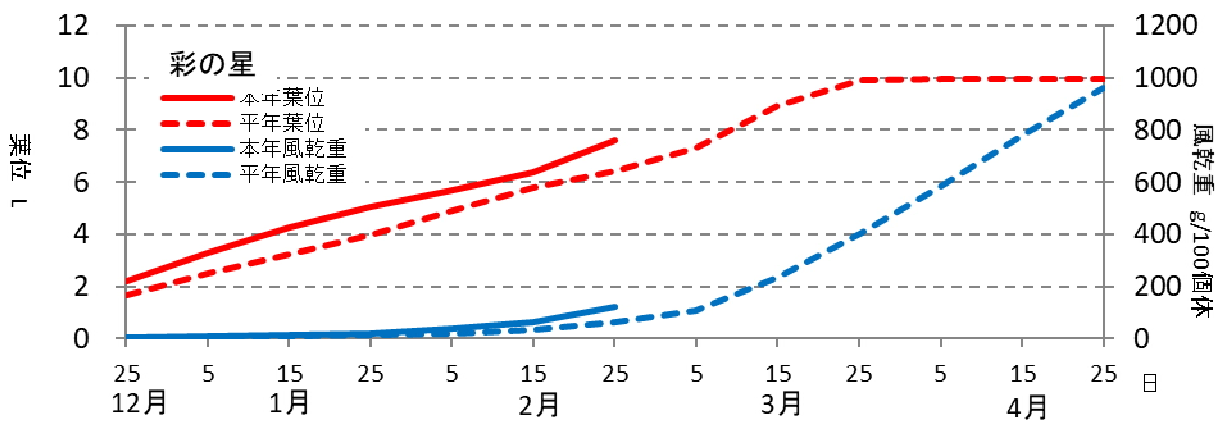
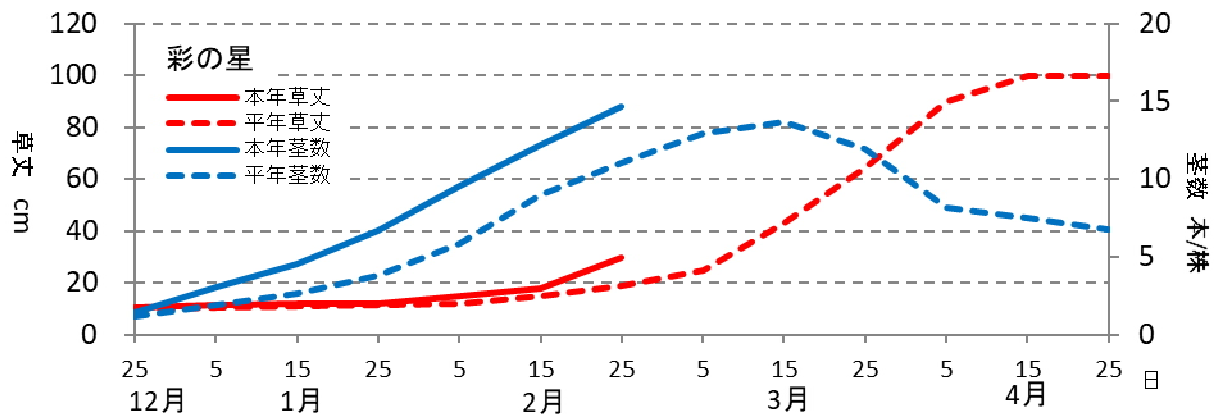
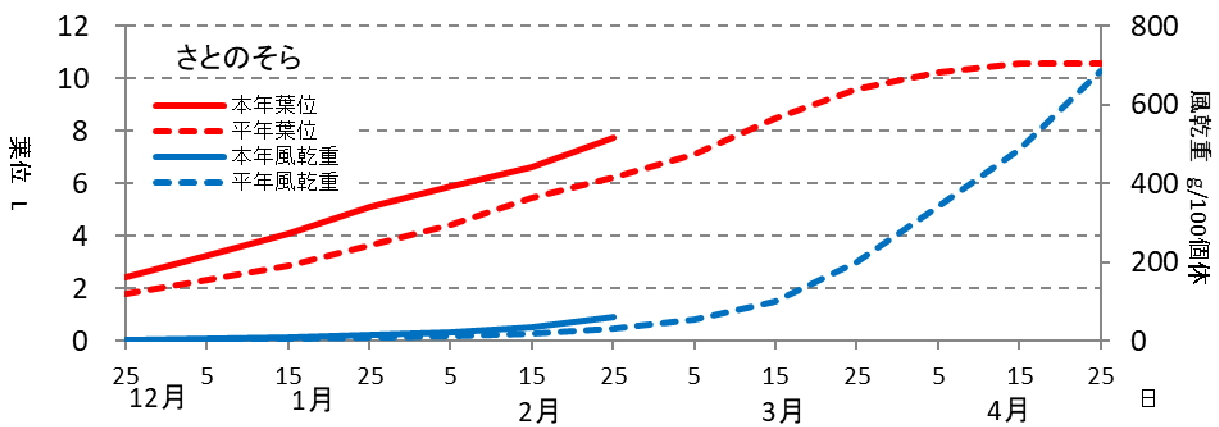
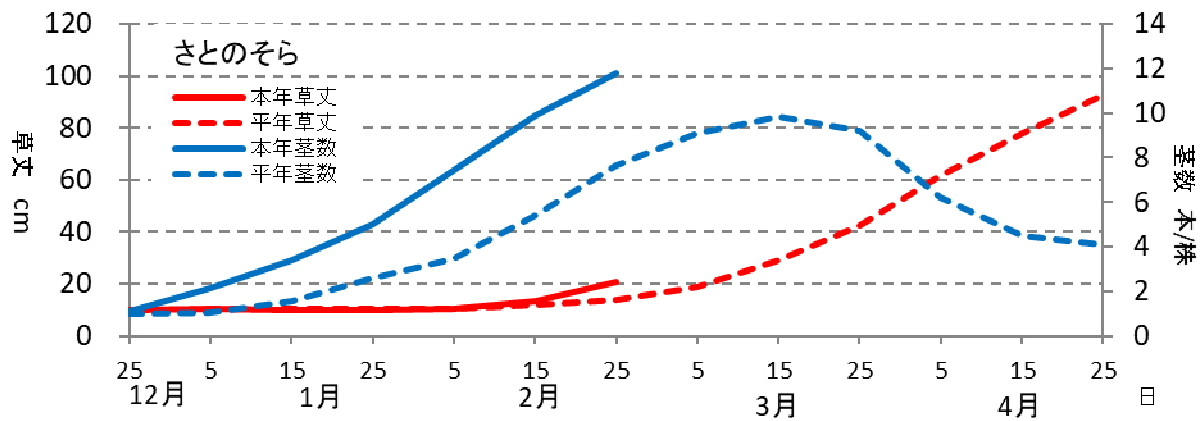
4 茎立期

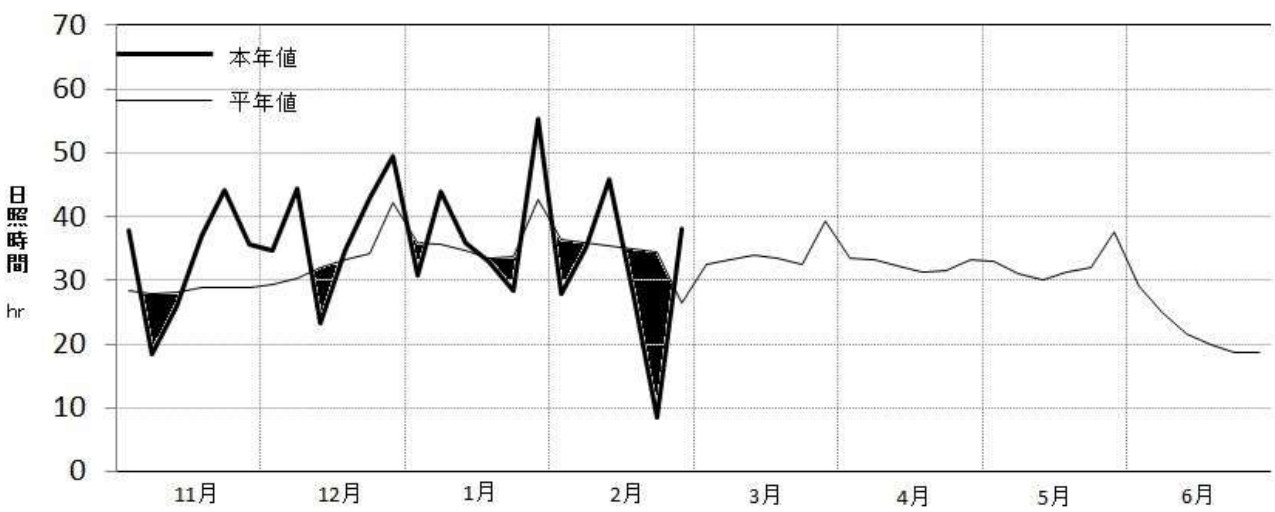
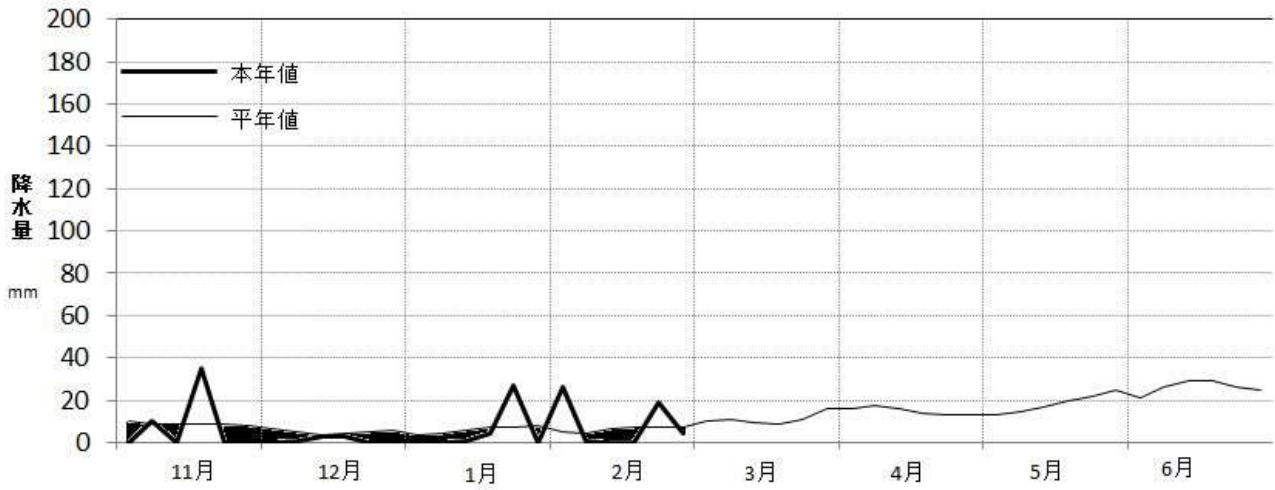
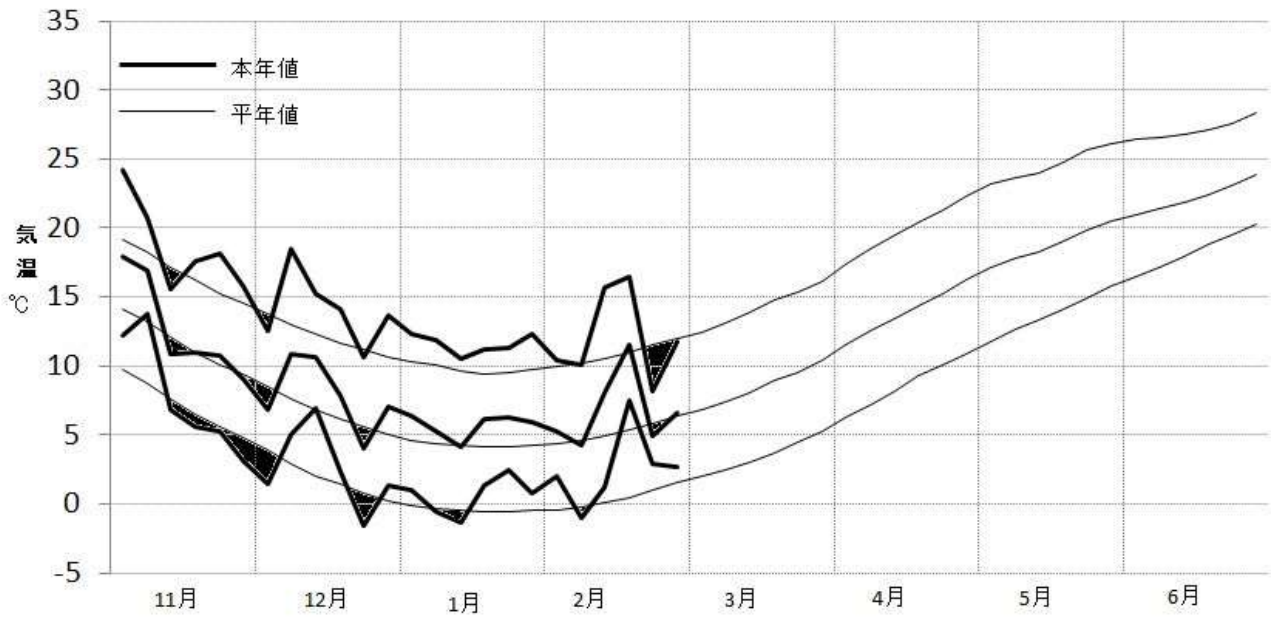
品種名	茎立期		
	本年	平年	平年差
さとのそら	-	3/14	-
彩の星	2/29	3/6	-6

(参考)出穂期の平年値

品種	出穂期
さとのそら	4月10日
彩の星	3月31日

5 生育経過（11月24日播種）





令和5年播(6年産)冬作期間気象図
(熊谷地方気象台日別データより作成)